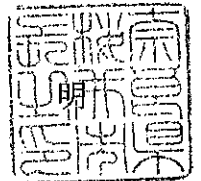




桜土第635号  
平成19年5月1日

国土交通省 道路局長 様

桜井市長 長谷川



道路整備の中期的な計画の作成にあたっての意見

このことについては、別紙のとおりですので宜しくお願い致します。

## 道路整備の中期的な計画の作成にあたっての意見

桜井市長

桜井市のように中山間地域を有する地方都市にとって道路は、日常の生活や経済、社会活動を行ううえで欠く事のできない、最も基礎的な社会基盤として主要な施策のひとつとして、道路特定財源を活用して整備を図ってきているところです。

骨格を成す国道や県道、都市計画道路等の幹線道路については、整備が進んでいますが、集落からそれらの道路へ連絡する市道は、道路幅員4.5m未満の狭隘な道路が全体の2/3を占めています。特にこれらの道路は、各集落へ連絡する欠く事のできない生活道路で、非常に強い整備の要望があります。しかしながら、厳しい財政状況のなかでの対応には苦慮しています。現地の実情にあった整備、例えば一律に拡幅するのではなく待避所を効率よく配置して整備を行うなどの工夫をしながら行っているところです。

地方分権の流れの中で三位一体改革が進められ、地方の役割が重要になっていく中で、市が行う仕事は増えてもそれに伴う財源が増えないという状況があります。財政力の弱い市町村にとっては、道路整備にかかる財源をどのように確保するかということは頭の痛い問題です。特に遅れている中山間地域の骨格を成す幹線道路へ連絡する、地域の住民にとって日常生活を行ううえで欠く事のできない狭隘な道路の整備を引き続き着実に推進するための安定した財源を確保されないと、本市の活力あるまちづくり、地域づくりが遅れるのではないかと危惧しているところです。

桜井市では現在、奈良県中央部における東西交通の機軸を担う「中和幹線」の整備を進めていますが、この道路は、桜井市から大阪府柏原市に至る延長約22キロメートルの主要幹線道路で、完成すれば京奈和自動車道や西名阪自動車道と相まって大阪方面から当市への所要時間が大幅に短縮され、観光振興や経済活動などに大いに寄与することが期待されています。また「中和幹線」とネットワークを形成する「大福出垣内線」、本市の玄関口である桜井駅から南へ伸びる「桜井駅メスリ塚線」などの街路築造事業も促進しており、本市がめざしている「快適で活力のある生活文化都市」の街づくりに大いに貢献することが期待されており、合わせて事業の早期完成を目指しています。

そして道路の管理については、限られた担当職員の他、日常より市職員が一丸となってパトロールを行い、安全に供用できるよう努めているところです。既存の道路ストック（橋梁やトンネル等の重要構造物）が急速に高齢化していく中で長寿命化を図

り、改築（橋梁の架け替え、構造物の再構築）・修繕に係る費用の縮減を促進し、合わせて耐震化、対荷力の向上を計画的に進めていかななくてはなりません、これについても安定した財源の確保が必要となっています。

このように道路は、日常の生活に密着しており日々の生活をするうえで切り離すことの出来ない最も基礎的な社会基盤施設であり、その整備は全市民が長年にわたり熱望してきているところです。

最後になりましたが、現在鋭意事業を推進しております「中和幹線（一部地方高規格道路）」は平成22年春の全面供用開始をめざしています。既に供用しています樫原市境より桜井市内へ1.25キロメートルの沿線は、市街化調整区域であり「農業振興地域の整備に関する法律」による「農用地」として指定されている地域内のため沿道開発が行えません。

巨額を投入し整備した幹線道路が単に通過交通のみという現状を変更したいと関係各方面に「区域変更」について協議を行っていますが、非常に困難ということがあります。このような状況を打開するべく国レベル（国土交通省と農林水産省）での協議を持っていただけないものかとお願ひする次第であります。